



ICT活用で高まる介護の質 ～HitomeQによる転倒予防と効率化～

熊本県 介護老人保健施設リバーサイド御薬園

発表者：竹村 周記

共同演者：Dr山田和彦, NS中村千恵子, CS森口美琴
Dr立津梨恵, NS出永寿美, CS元田智香

※ 利益相反なし

導入の経緯など

施設概要

- ・ 定員80名／超強化型

ICT機器を導入する前の主な課題

- ・ 居室での転倒原因が不明確
- ・ 夜間は居室外にベッドを移動して見守り
- ・ 夜勤者の業務負担が大きく、対応に限界
- ・ 固定電話中心の連絡で非効率
- ・ 業務の効率化が困難



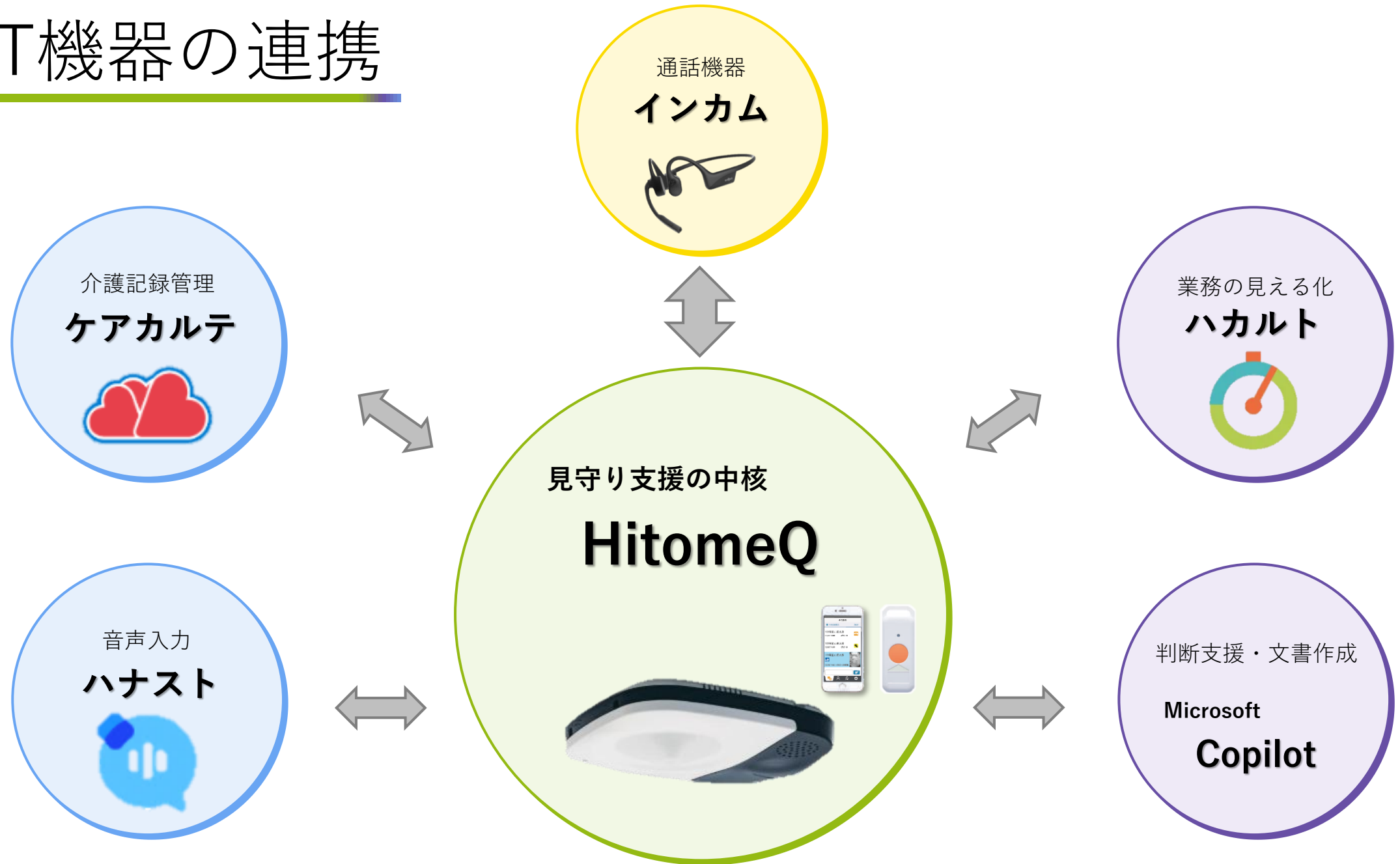
導入したハード

	HitomeQ	80床（全居室）
	iPhone	29台
	インカム	29台

導入したソフト

	記録	ケアカルテ
	音声入力	ハナスト
	業務分析	ハカルト
	文書支援	Microsoft Copilot

ICT機器の連携



運用を支える三者連携



導入効果の検証方法



現場の観察と分析



職員アンケート



タイムスタディ



転倒件数の変化

導入効果① 運用 / 夜間対応



運用の安定化

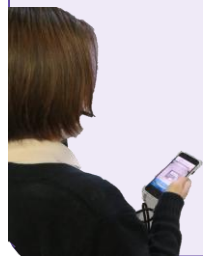
- 導入初期の混乱は、ICT推進チームにより早期に安定した。
- 職員の受け入れは概ね良好だった。
- 一部の職員にデジタル機器への不安がみられた。
- 生産性向上推進体制加算Ⅰの要件を満たし算定を開始した。



夜間対応の改善

- 夜、居室外にベッドを出す必要がなくなり、職員の負担が軽減した。
- ナースコールが施設内に鳴り響かず、良質な睡眠へ繋がった。
- 利用者から「静かになった」との声が聞かれた。
- 睡眠状況がグラフ化され、薬剤調整や睡眠の質の改善に繋がった。

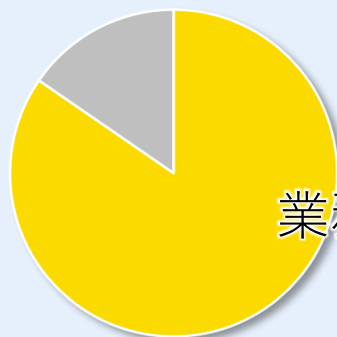
導入効果② 職員間連絡 / 職員アンケート



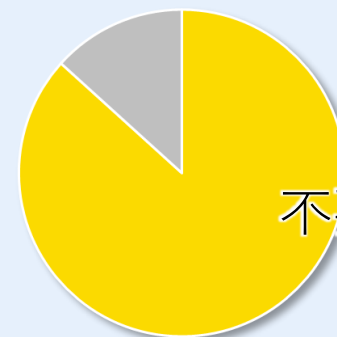
連絡の効率化

- 全体連絡はチャット。通話はiPhoneとインカムで直通。
- 職員からは「連絡が楽になった」との声が聞かれた。
- ナースコールもiPhoneで対応。
- 外線は従来通り固定電話とPHSで、スマホの内線化を検討。

職員アンケート (回収率 92.9%)



業務負担が軽くなった
84.6%

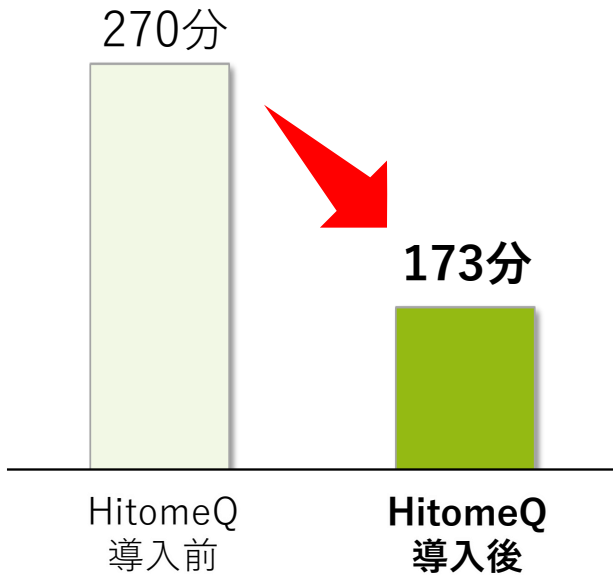


不要な訪室が減った
86.7%

導入効果③ タイムスタディ

夜間訪室時間の減少

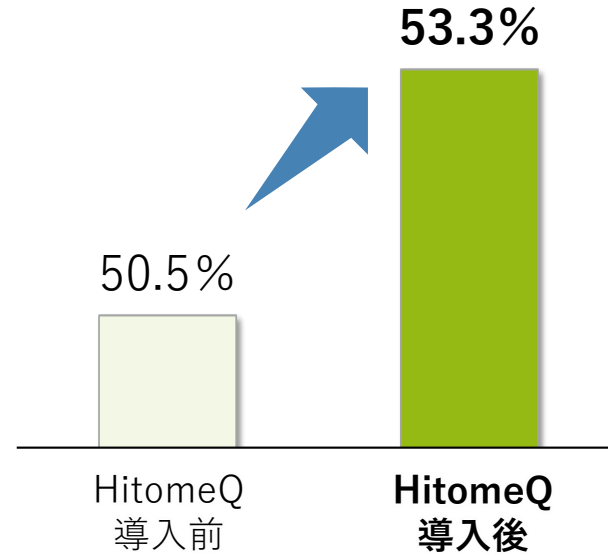
(ハカルトによる測定)



- 1日あたり **-97分**
- 仮眠時間の確保
- 余裕をもったケア

直接介護時間の増加

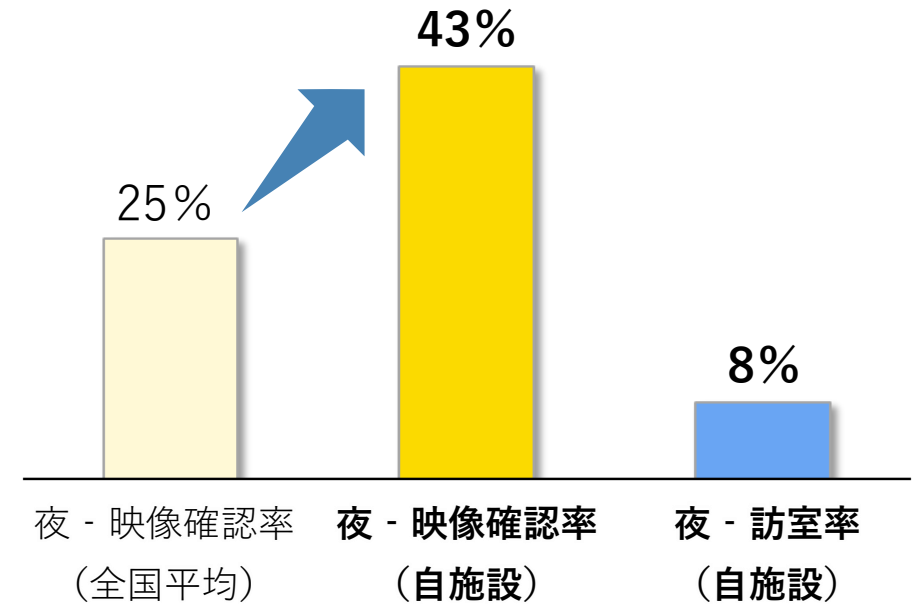
(ハカルトによる測定)



- 1日あたり **+2.8%**
($\div$ 19分)
- 移動介助等の減少

HitomeQ 活用状況

(コニカミノルタ提供)



- 映像を確認し、**必要な訪室のみ**を実施できている。

導入効果④ 転倒予防

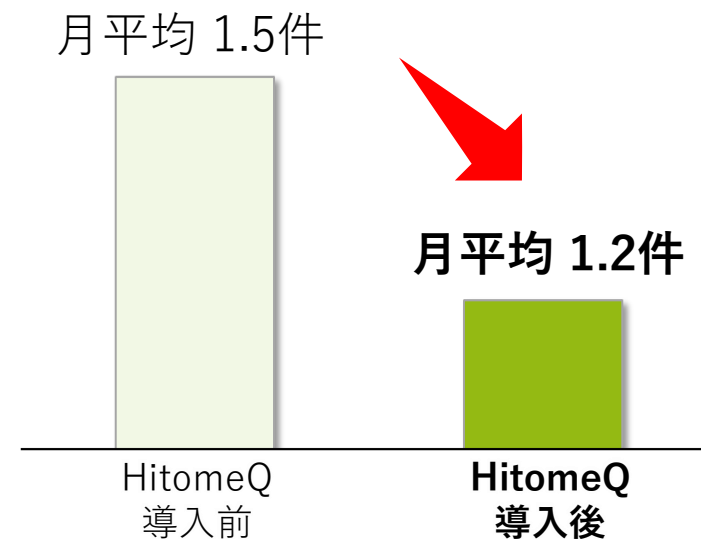
転倒分析の高度化

(HitomeQの映像記録：個人情報保護のため映像は加工)



夜間の転倒件数の減少

(事故防止委員会の記録)



- ・ 状況を正確に把握でき、原因の特定と再発防止策の検討がしやすくなった。
- ・ 家族への状況説明が円滑になり、疑念や不安の軽減に繋がった。
- ・ 転倒件数 **1か月あたり -0.3件** (年間で **-3.6件**に相当)



ICT活用の成果と今後の展望

導入の成果

業務効率化と負担軽減

- ・ 不要な訪室の削減
- ・ 居室外対応ゼロ
- ・ 職員間連絡の効率化
- ・ 記録作業の効率化

安心安全の向上

- ・ 転倒予防の精度向上
- ・ 家族説明の円滑化

介護の質の向上

- ・ 直接介護時間の増加
- ・ 余裕をもったケア

導入後の課題

- ・ 現場が使いやすいセッティング
- ・ デジタル機器への苦手意識
- ・ 継続的な教育体制の整備
- ・ 情報セキュリティの対策
- ・ ICT機器とデータの更なる活用

対策と今後の展望

- ・ ICT推進チームによる伴走支援など、現場主導の運用体制の強化
- ・ AI（Copilot）活用による教材作成など、教育体制の強化
- ・ 情報のグラフ化など、データ活用の高度化
- ・ 他施設との成果共有を通じて、**より質の高いケアの実現を目指す**

